

# 軒昂会

軒昂会会報 第34号  
 発行者 日原 雄  
 編集者 田村千秋  
 発行日 平成24年3月  
 URL : http://ct.photo-web.cc/kkk/  
 会報 : http://ct.photo-web.cc/kkk/pdf

会報は年2回予定しています。  
 皆様の原稿お待ちしております。  
 頂いた方にはお礼申し上げます。  
 原稿の送り先  
 Eメール : ctamur@ybb.ne.jp



塔ノ沢一の湯本館

## 平成二十三年度総会のご案内

昨年度の総会は東日本大震災の発生で中止しました。被害に遭われた方々には心からお見舞い申し上げます、また一日も早く復興されることお祈り申し上げます。  
 そんなことで二年ぶりの総会を左記の通りご案内申し上げます。

多くの皆様の参加、幹事一同お待ちしております。  
**日時** 四月二十五日(水) 〃二十六日(木) チェックイン十五時  
**場所** 箱根湯元箱根一の湯(前回と同じホテルです)

**宴会費** 参加会費一万一千円  
 当日、年会費二千円と合わせて一万三千円集金させていただきます。

出欠用返信はがき同封してありますので四月七日までにご返送ください。  
 箱根一の湯のパンフレット同封します。  
 露天風呂、大浴場につきり一年ぶりの再会を祝いましょう。カラオケも用意しました。また有志の皆様から近況や活動のスピーチ頂ければと思っております。

## 東京デイズニールランドで「東日本大震災」に遭った記録

田村千秋

平成二十三年三月十一日(地震の日)東京デイズニールランドに家内と行ききました。TDLには毎年二回程訪れてます、孫や子供抜きで。入場者は若い人が大半で老夫婦は1%ぐらいで、気がひけますがそんなことはお構いなしで楽しみます。ハイテクを駆使した映像(3D)、ロボットの仕掛け、場内の飾りつけ等々写真撮影の題材には事欠けませんし興味は尽きません。  
 三時から始まるパレードを見るため



にいい場所を確保して待つてた時巨大地震が起こりました。場内の大地がうねるような揺れが何時までも続きました。観客は係員の誘導でパレードが通る地べたにしゃがみ収まるのを待ち続けました。  
 それからが大変な事態となりました。安全確保のため建物に入れてくれないのです、また場外(駐車場)に出るのも禁止で寒い外で長時間避難させられました。  
 情報は何も入ってこないし、携帯はつながらないし(後で分かった事です)、がメールは使用できた)、トイレは長蛇の行列、レストラン、売店は営業中止。結局夜遅くなって狭い寒い部屋に入れられました。



寒さをしのぐ為にビニール袋をかぶったりダンボールを敷いたりして。  
 夜明けやつと駐車場に行きましたら津波の影響で駐車場は液状化現象で多くの車が傾いたり半ば沈んだりしてました、幸い私の車はぬかるみの中十五センチほど沈んでましたがエンジンは健在でした。おそろおそろ一面ぬかるみ状態の駐車場を安全な場所に移動しました。二人とも足元は泥でぐちゃぐちゃ、車内も泥だらけ。

カー暖房のおかげでやつと落ち着きを取り戻し、道路情報をカララジオと娘とのメールのやり取りで得ることができました。首都高速一部不通、東名も部分的に開通してることが分かり行ける所まで行くことを決意し、早朝明るくなるのを待つて出発(午前五時)秦野市の自宅着(十一時)、普通なら一時間半の距離です。

東京デイズニールランドは海に面しています、堤防の高さは三、四メートルほどです、当時場内には七万人が入場(テレビの情報TDLとTDS合わせて)していたそうです。堤防の高さ以上の波が押し寄せてたらこの記事は投稿出来なかったかもしれせん。  
 大事に至らずほっとしてます。東日本大震災に遭われた方々心からお見舞い申し上げます。

## 紙飛行機が舞う空 「愛機帰還せず」続編

菅原 忠雄

私には紙飛行機の師匠が二人居る。初めて誘ってくれ、一から教えてもらったA氏とO氏である。私より五、六才若いA氏は作り方が緻密であり、調整技術も高く、優れたアイディアマンでもある。飛ぶように作ったのだから調整すれば必ず飛ぶようになる、という持論を毎度のように聞かされる。一方O氏は私と同年、謹厳実直な人柄なのだが飛ばないものは飛ばない、難しい調整などするよりどんな捨てて新しく作った方がよいとの説を曲げない。  
 どちらの言い分も分かるような気がするが、私は一度か二度だけ調整してなお駄目なものは捨てる、という両者の中間の方法をとっている。

○空飛ぶ仲間たち  
 初夏の頃、早朝のグラウンドにはよくツバメが飛び交う。紙飛行機がけて急接近し、一メートルくらいのところですいっと違う方向へ飛び去る。  
 さも、なーんだこれは、と紙飛行機を軽蔑したように離れて行く。

盛夏の頃には、尾の茶色っぽい赤トンボが、初秋の頃には尾の真っ赤な秋アカネが紙飛行機に寄り添うようにまとわりついてくる。こちらはまるで友達のようになかなか離れない。  
 夕暮れ時には蝙蝠が紙飛行機を追いかけるといふ話だが、私は夕方飛ばすことがないので、まだ、蝙蝠のニアミスを見た経験はない。

○二人の女性  
 紙飛行機をやり始めた三年前の夏、毎朝のようにグラウンドに散歩に来る老婦人がいて、いつしかベンチで語り合うようになった。丁度疲れて休憩したいときにベンチに座って待つていてくれる。八三才だということの女性は家族のこと、毎日の生活、若い頃のことなどたんとと語るのだが、言葉のはしはしに家族への感謝の気持ちが汲み取れ、聞いていて気持ちよかつた。

ある朝、彼女が「あのひととも感じのよい人よ、ぜひお友達になろう」と犬を連れて散歩している中年の女性を指した。以下次号

軒昂会だより  
 規定により年会費未納者九名の方を脱会とさせていただきますました、よって現在の会員数は三十三名です。  
 お問い合わせ  
 平成二十三年度軒昂会会費二千円会計までお振込みお願いします。  
 振込み先  
 株式会社みずほ銀行厚木支店  
 口座番号 二二二六九〇〇

六十四歳の派遣（前号の続き） 宮本新司

いよいよ初出勤の日です。金沢文庫の駅で派遣会社の担当者と待ち合わせをして会社に向かいました。初めに、総務の人から、作業服、ロッカーの引き、ヘルメット、等を受け取り、勤務時間、その他簡単な説明を受け、ロッカーで作業服に着替えた。このロッカー室は事業部によって場所が決まっており天井から大きな事業部名が吊り下げられていた。私のロッカーの吊り下げられた事業部名は、その他となっていた。このその他は正社員以外の勤務者、即ち、派遣、期間工、請負会社等。請負会社には外国人、ブラジル人、韓国人、特に、中国人が多くいた。私のロッカーの周りは中国人が多く中国語が飛び交いまるで中国にいるようだった。着替え後、配属先の上司に引き継がれた。配属された部署名は、「車両事業部 計画部 企画課」という部署である。会議室で、課長から会社の事業内容、話によると、メーラーで製造しているのは、鉄道車両、特殊自動車（トレーラー、タンクローリー、消防自動車、救急車等）鉄道用のレール、それに病院等で使用しているICカード、分煙用の排気クリーナー等であること。

鉄道を製造しているのは、日本では、わずかに四社しかないこと。鉄道車両は、主にJR東日本の車両、新幹線では、東北新幹線、秋田新幹線、山形新幹線上越新幹線、長野新幹線、東海道新幹線も初めの0系は作っていたが今は製造していないとのこと。JR東日本の旅客車両、東海道を初め、山手線、京浜東北線はもちろんのこと、北斗星、関東一円の私鉄、東京の地下鉄、横浜の地下鉄、みなと未来線、それと、関西・四国の私鉄・九州・北海道のJR、私鉄・下田のロープウェイ、その他私鉄関係、余談ですが、新聞テレビ等でニュースになったのが、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、「お召し列車」も製造しました。

（残念ながら、天皇陛下の乗る列車は当社ではありませんでした。ただ一編成として本線に向かうときは、当社から出線していきました。そのときは、管理職が全員見送ったということでした。）

原価計算の募集をしていて配属先が、車両事業部 計画部 企画課？と疑問を持っていたら、課長が今年（平成十八年）の十月から今まで経理部で処理していた会計関係の一部を各事業部で処理することになったということでした。ちなみに、車両事業部の他には特殊自動車を扱う特装事業部がある。人員は課長以下私を含めて5名とのこと。それでもなお、企画課で原価計算？マダメトレックスのイメージが強かったのでピンときませんでした。それともう一つ疑問に思っていたのは、以前は確か東京証券市場一部上場会社であったのが、東急電鉄の100%子会社になったこととです。これに対しては最後まで明確な説明はありませんでした。ここでもまだ受け持つ仕事の説明はありません。ただ気がついたことがあつたら言ってくださいというだけです。一通り概要の説明が終わる「企画課」の部屋に連れて行かれ課の人に紹介され、そのときに同じ部屋には、お客様（JR、私鉄）からの受注に対する見積もりをする「見積課」がいた。

私が受け持つ仕事の内容が説明されたが、仕事の内容は、支払伝票のチェック、電気、水道、ガスの各部への配布計算および振替伝票起票、振替伝票チェックおよびパソコンへの入力、未収入金処理、固定資産関係、仕掛残高表作成……等細かいものばかりです。肝心の募集の「原価計算」がありません。原価計算はあるのです。これは約束が違う！と思つたが既に「セコムテクノサービス」を辞めて退路を断つてきてしまったので今更「セコムテクノサービス」にも戻れないし正直

弱ったな？と思つた。まあ、まよ、ここは、しばらくやってみるかと思つて取り直すことにした。しかし、やつてみるは良いが何しろほとんど一日中パソコンと睨めつこ目は疲れるし、肩はこるし、集計するにしてもどこからどこまでが一つの集計単位かもわからず初日から残業の連続、その上、勤務時間が、八時からなので、朝五時過ぎに起きなければならずこれが続くのかと思つた。いやになりました。ちなみに私が入る前に女性が二人立て続けに歓迎会をした後一月で辞めてしまったとのこと、また、もう一人は一日来て辞めたいところに来てしまったと後悔しました。私が来たとき既に遅くし我慢しようと覚悟を決めた。でも、確かに朝八時から毎日毎日残業したら辞めたくもなるだろうなと思つた。

仕事自体も正直言つて遣り甲斐のある仕事ではない。家族も入社早々残業ばかりして、家に帰るのは大体八時〜九時過ぎ、それから食事、風呂、寝るの十一時近く睡眠時間が六時間から六時間半という生活をみて、辞めたらとも言つてくれたが、ここ二人が一月で辞めたという話を聞くとちよつと辞めれないなと思つた。なにせ、直接の前任者がいないので、引継ぎもな

く、簡単なメモ程度の引継ぎ書、しかも前のを見ながらやっていると十、二月も何とか過ぎ正月休みに入りやれやれと一息つきました。本決算も何とか終わったなと思つていたら、経理部からこういう資料が出ていないと督促を受けたが、その話は全然聞いてなくほかの人に聞いても解らないと言われなんだよこの会社はと思つた。経理部の指導をうけなんとか作成した。あれは、6月のことだったと思ひます。

次号最終編ご期待ください

編集後記

三月十一日はもうすぐです、皆様の手元に届くころは多分過ぎていくと思ひます。千年に一度の割で起こると言われている「東日本大震災」私は東京デイズニールランドで貴重な体験をしました。僥倖ながらその時の様子を載せさせていただきます。最近になって当時の恐怖が和らぎました。

菅原会員の「愛機帰還せず」の続編をお届けします。

先々号より「軒昂会フォトギャラリー」を設けました。皆様の作品お待ちしております。写真や画像はメールで送っていただいてもまた郵便でも結構です。

田村



浅草寺より望む「スカイツリー」

